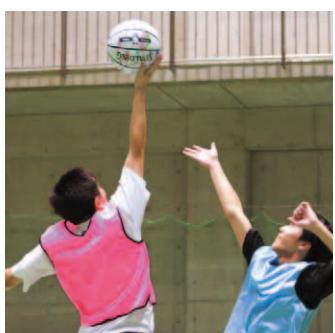


DAIDO CAMPUS

No.98 2019.12



大同大学 部活動の活躍!

男子ハンドボール部

西日本インカレで3位

入賞しました!

8月14日(水)から16日(金)に開催された西日本学生ハンドボール選手権において、本学男子ハンドボール部が3位に入賞しました。

8月14日(水)の初戦では、同じ東海リーグ所属の名城大学と対戦。近年勝ち星を挙げられなかったライバル校を相手に、31-25で見事勝利を収めました。

続く、8月15日(木)の準決勝では、関西チャンピオンの大日本体育大学と対戦。選手たちの奮闘により試合終盤まで食らいつきましたが、惜しくも26-29で敗戦し、3位入賞で大会を終えました。

表彰では、本学総合情報学科3年の平井亮多さんが優秀選手賞に選ばされました。

選手の皆さんには、今後も大会に向けて活動していきます。



男子ハンドボール部・女子ハンドボール部 東海学生ハンドボール秋季リーグ

秋季リーグ戦成績

男子 3位 女子 3位

個人賞受賞者

男子 ベスト7: 早船 優さん(4年)

女子 ベスト7: 主将 山岡 莉那さん(4年)



備一真さん(男子バレー部)

学連選抜対抗戦で

ベストリベロ賞を受賞しました



8月27日(火)から29日(木)までの3日間で「第20回 西日本 大学男子バレー部学連選抜対抗戦」が開催され、経営情報専攻4年の備一真さんが東海選抜チームのメンバーに選ばされました。

北海道から九州まで8つ

の学連が参加したこの選抜対抗戦で、東海選抜チームは予選も1位で突破し、見事2度目の優勝を果たしました。

備さんは、個人賞としてベストリベロ賞を受賞しました。また、東海リーグにおいては、1年次から連続で通算8度のリベロ賞を受賞しました。そのリベロ賞の受賞にあたり、備さんは「受賞が続いているのでプレッシャーや不安もあったが、いまはシンプルに嬉しいです。これからもバレーを続けていきます!」とコメントをしました。

備さんのこれからの活躍にも期待が高まります!また、男子バレー部は11月25日(月)から行われる全日本インカレに出場が決まっています。

第56回錦杯学内レガッタ大会が開催されました!

通算56回目となる本学伝統の「レガッタ大会」が11月3日(日)に行われました。

レガッタは5人1組で漕ぐもので、チームの息を合わせることが大きなポイントとなります。一人でも個人プレーをしてしまうと、とたんに進まなくなってしまったり、進む向きが変わってしまったりと決して簡単なものではありません。

当日は、クラブの部から7チーム、一般の部から4チームが参加しました。初挑戦の学生も多くいる中で、時折雲が広がる様子もありましたが、最後には秋晴れとなり、終了後には最高の笑顔があふれました。

結果	順位	クラブの部	一般の部
	1位	EDPS部	山田錦
	2位	水泳研究会	筋肉室
	3位	吹奏楽団	学生卍会



写真提供:アルバム委員会

2019年度体育祭が開催されました!

10月19日(土)、20日(日)の2日間で体育祭が開催されました。今回は、バドミントン、バスケットボール、サッカー、卓球、E-Sportsの5競技とミニゲームが行われました。中でもE-Sportsは、初開催ながらも2日間にわたって行われ、かなりの盛り上がりと人気を見せました。

東京オリンピックにちなんでコンパクトな体育祭を目指した今回の体育祭では、2日間でのべ287名が参加をし、笑顔溢れる2日間となりました。



写真提供:アルバム委員会

競技結果

バドミントン	バスケットボール	E-Sports
1位 NT	1位 ぱきしきず	1日目1位 平井 佑汰
2位 二等分の花嫁	2位 愛三よん	2位 鈴木 涼平
卓球	サッカー	
1位 坂本 克弥	グラウンドの状況	2日目1位 近藤 優
2位 村手 秀成	により中止	2位 鈴木 愛梨

ストリートダンス同好会

柴田商店街振興組合より表彰されました!

本学のストリートダンス同好会が、279ステーション2018年度事業の放課後自習室ボランティアを行い、その功績が安心安全なまちづくりに多大な貢献をしたとして柴田商店街振興組合より表彰されました。

279ステーションは、2016年8月からコミュニティレンタルスペースとしてスタートし、地域の人と人、人と物をつなげる重要な役割を果たしています。ストリートダンス同好会は、毎週火曜日に「放課後ダンス」として地域の子供たちに学習支援やダンス指導を行っています。

279ステーション

<http://279.nagoya/>



▲(左から) 磯部 勇杜さん、小村 明瑠夢さん、鈴木 涼平さん、横地 伶音さん

レーシングカート部

第24回全国学生カート選手権で史上最多7回目、2年連続の総合優勝!

8月15日(木)に第24回全国学生カート選手権が宮城県柴田郡のスポーツランドSUGO西コースで開催され、本学のレーシングカート部が史上最多7回目、2年連続の総合優勝を果たしました。

全国学生カート選手権は、学生カーターたちの年に1度のビッグイベントで、学生がスポンサー集めや会場の運営を行って実施されています。

レースは車種や質量別の3部門があり、各クラスの上位入賞者にポイントが振り分けられる仕組み。本学はYAMAHA-TIAクラスで鈴木稜馬さん(工学部 建築学科1年)が優勝するなど、各部門で手堅くポイントを取り、見事総合優勝を手にしました。

ロボット研究部

「第3回東海市ものづくり道場」でロボット操縦体験会を実施しました

8月9日(金)に行われた東海市教育委員会が主催する「第3回東海市ものづくり道場」にてロボット研究部の学生4名が小学生を対象にロボット操縦体験会を実施しました。参加したのは浅井涼太郎さん(部長)、荒川翔麻さん、田村耕大さん(いずれも工学部総合機械工学科3年)、滝川晃生さん(工学部 電気電子工学科2年)の4名です。「ものづくり道場」は小学生を対象に、ものづくりへの興味・関心を持ってもらうことを目的に行われています。

ロボット操縦体験は子ども達に大人気で常に長蛇の列ができるおり、アンケートにおいてもロボットの操縦がとてもおもしろかったという意見が多數ありました。担当した学生も、子供たちの予想以上の関心の高さに大きな達成感を得ることができました。



▲ロボット操縦体験会の様子

田村耕大さん(ロボット研究部)

第27回Robot Championship “Brave”にて優勝しました!

9月21日(土)から23日(月)の3日間で行われた「第27回Robot Championship “Brave”」にて、ロボット研究部の田村耕大さんが優勝を果たしました。

今回田村さんは、敗者復活戦を乗り越えての優勝となり、「この大会で引退だったので、時間をかけて準備した甲斐がありました。一度負けてしまったときは焦ったけど、優勝できて良かったです。ロボット作りは大変だけ面白いからこれからも続けていきたいです」とコメントを残しました。

優勝おめでとうございます!



▲表彰状とロボットを手に微笑む田村さん



▲トロフィーを掲げる土本さん

ドライバーも務めたレーシングカート部部長の土本奨悟さん(工学部総合機械工学科3年)は、「会場である宮城県までの移動だけでも大変でしたが、年1度のこの大会に向けて一生懸命、チーム一丸となって準備した結果だと思います。2連覇は大変うれしいですが、既に来年の大会を見据えています」と意気込んでいました。

井俣竜士さん、山腰浩平さん(工学研究科 修士課程)

日本金属学会・第165回講演大会にて発表しました

9月11日(水)から13日(金)に、岡山大学にて開催された、日本金属学会2019年秋期(第165回)講演大会にて、大学院 工学研究科 修士課程2年の井俣竜士さん(写真左)と山腰浩平さん(写真右)とともに「力学特性の基礎」のセッションにて口頭発表をおこないました。

井俣さんは、講演タイトル「AI-Mg-Si合金における等温時効での力学特性変化」として、同合金中の微細析出(添加したマグネシウムとシリコンの集合体)と同合金の強度との対応関係を数値解析を用いて報告しました。

山腰さんは、講演タイトル「急冷した高純度アルミニウム単結晶の転位チャンネル内プリズマティック・ループ集合体」において、透過電子顕微鏡を用いた最先端の観察法(3DTモグラフィー)を駆使した、金属の加工硬化(ひずみを加えると硬くなる現象)の解明に関する研究を報告しました。



▲学会発表を行った井俣さん(左)と山腰さん(右)

松原成佳さん(建築学科 インテリアデザイン専攻)

建築新人戦2019で 100選に選ばれました!



建築学科 インテリアデザイン専攻 3年の松原成佳さんが設計した作品が「建築新人戦2019」で100選に選ばれました。

建築新人戦は、所属する全国の教育機関(大学・短期大学・専門学校・高等専門学校)で取り組んだ設計課題作品を対象に実施するコンテストです。

一次審査を突破した100作品は、展覧会場に展示され、二次審査・公開審査会において最優秀新人を決定します。大学の枠を超えて多様な建築の議論の場として、またこれが今後活躍の期待されるゴールデンルーキー発掘の場であることも「建築家教育」の可能性を開くものです。他校の学生との設計課題作品を介した交流を通じて、自らの構想や技量そして自身の所属する教育環境を問い合わせ直す場でもあります。

9月20日(金)・21日(土)の会期で、梅田スカイビル タワーウエスト 3階を会場とし、1次審査で選出された100作品を展示された

のち、9月21日(土)には同ステラホールにて、2次審査で選出された8作品の公開審査会・プレゼンテーション及び表彰式が行われました。

▲松原成佳さんの作品「アートの紡ぎ」

建築新人戦2019のHP

<http://kenchikushinjinsen.com/index.html#about>

結果発表

<http://kenchikushinjinsen.com/%e7%b5%90%e6%9e%9c%e7%99%ba%e8%a1%a8.html>



太田寛和さん、杉浦舞さん
(建築学科 インテリアデザイン専攻)

学生チャレンジ企画

『西尾駅にぎわいプロジェクト』で 最優秀賞に選出されました!



▲表彰を受ける
太田さん(左)、杉浦さん(右)

8月27日(火)に開催された、「学生チャレンジ企画 西尾駅にぎわいプロジェクト」の最終プレゼンテーションにて、西尾市民のオーディエンス、西尾市長、アドバイザーの長岡勉氏による投票の結果、最優秀賞に工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 武藤隆研究室 4年 太田寛和さんと、同

中島貴光研究室 4年 杉浦舞さんに

よる、大同大学生チーム「mos」が提案した「インフォメーション・ファニチャー」が、最優秀賞に選ばれました。

この「西尾駅にぎわいプロジェクト」は、名鉄西尾駅改札口東側のペデストリアンデッキの活用について、未来の西尾市を担う高校生、大学生から広くアイデアを募り、今後にぎわいづくり、まちづくりにつなげる事業で、今は何もない空間に、何があったら、どんなことが出来たら、そこはいつでも「集まりたい場所」「すてきな場所」になるかを提案するもの。このプロジェクトでは、参加申込からプランづくり、中間報告会、最終プレゼンテーションまでのすべてが夏休み中に集中的に行なわれ、短期間に実現可能なまちづくりの企画を立て、発表するまでには、チーム内の話し合いの他に、聞き取り調査や市の職員、専門家との多くのコミュニケーションや計画性が必要とされるプロジェクトでした。

西尾駅にぎわいプロジェクト

<https://nishiopjt.jimdofree.com/>

<https://twitter.com/nishiopjt>



HP

Twitter



永田峻将さん、杉本尚樹さん、常盤亮介さん(工学研究科 修士課程)

「第14回(公社)愛知建築士会学生コンペ 2019〈情の建築〉」にて、 大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻1年 宇野享研究室の 永田峻将さんが優秀賞に、同1年 武藤隆研究室の杉本尚樹さん、 建築学科 建築専攻4年 武藤隆研究室の常盤亮介さんが 佳作に選出されました



▲(左から)永田さん、常盤さん、杉本さん

本コンペは今年で14回を迎え、「イメージを実現する喜び」や「形にする苦労を経験してもらいたい」という理念に基づき、最優秀賞に輝いた作品は原寸大モデルの制作権が与えられます。コンペの審査員長は建築家であり、「MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO」を主宰する原田真宏氏が務め、最終公開審査当日は原田氏の記念講演会も開催されました。

最終公開審査は10月5日(土)に、名古屋工業大学にて、1次審査を通過した6作品の最終プレゼンテーション形式で行われ、本学大学院 工学研究科 建築学専攻 修士課程 1年 宇野享研究室の永田峻将さんと名古屋造形大学 大学院 造形研究科 修士課程 造形専攻1年の野々村慧さんによる、「此処は私も待つ」が優秀賞に、本学大学院 工学研究科 建築学専攻 修士課程1年 武藤隆研究室の杉本尚樹さんによる「列車風からノイズを受ける」、建築学科 建築専攻4年 武藤隆研究室の常盤亮介さんによる「Earth Architecture 一泥角に宿る情一」が、それぞれ佳作に選出されました。

全国の建築系大学・大学院からの多数の応募があったなかで、受賞者の半分を大同生が占めるという過去にない快挙となりました。



▲永田さんと野々村さんの作品



▲常盤さんの作品



▲杉本さんの作品

第14回(公社)愛知建築士会 学生コンペ2019のHP

[http://www.asanet.or.jp/
competition/index.html](http://www.asanet.or.jp/competition/index.html)



(公社)愛知建築士会学生コンペ のFacebookページ

[https://www.facebook.com/
asacompe/](https://www.facebook.com/asacompe/)



高尾 文宏さん、田中 義弘さん、増田 友規さん、
山本 俊介さん(情報学研究科 修士課程)

「愛知県大学対抗ハッカソン」にて 企業賞を受賞しました!

9月7日(土)から15日(日)にかけて行われた愛知県主催の「愛知県大学対抗ハッカソン」に、本学情報学研究科 修士課程 朝倉研究室 1年の高尾文宏さん、宮島研究室 1年の田中義弘さん、不破研究室 1年の増田友規さん、朝倉研究室 1年の山本俊介さんの4名が大同大学ハッカソンチームを結成し、参加をしました。

このハッカソンには、愛知県および岐阜県内の11大学が参加し、各チームは初日にICT技術を使って愛知県内企業から提示された実際の課題を解決するためのアイデアの提案を行いました。

残りの日程で、そのアイデアを小型のマイクロコンピュータや電子部品などを使ってプロトタイピングし、提案したアイデアの実現可能



▲(左から)高尾さん、増田さん、山本さん、田中さん

性を実証しました。

大同大学チームは、県内の印刷会社より提示された課題に果敢にチャレンジし、強豪ひしめく中、提案アイデアと実装力が評価されて株式会社バッファロー様から企業賞をいただきました。

佐藤大介さん(建築学科 建築専攻)

聴講留学援助・留学レポート⑦

2019年度学生海外聴講留学援助対象者 佐藤大介さん(建築学科 建築専攻 3年)からの留学レポートをブログへ掲載しました。

佐藤さんは2019年2月よりマルタ共和国にて、ランゲージスクールでの語学研修と現地大学での聴講留学にチャレンジしています。

2019年9月にEC語学学校での研修を修了し、マルタ大学へ進学しました。

ブログでは佐藤さんの留学レポートを月に1度お送りしています。

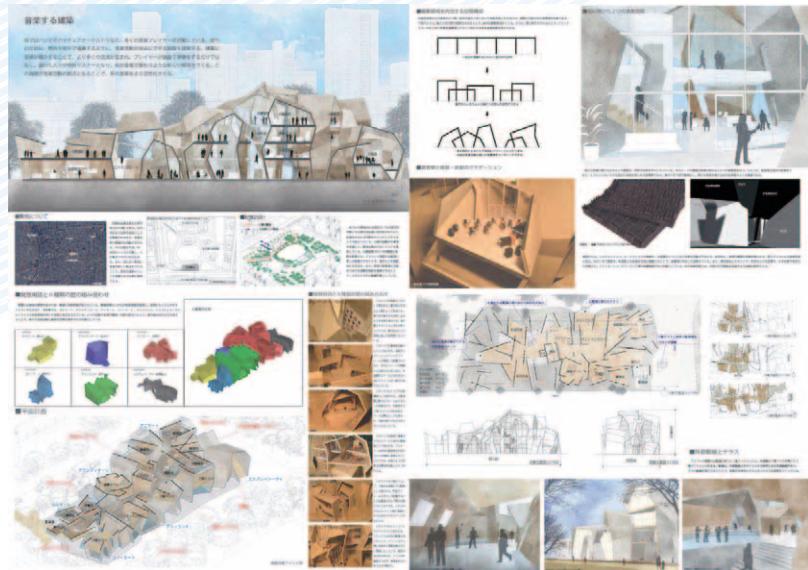
佐藤さんの留学レポートブログ

https://www.daido-news.jp/admission/study_abroad/1324/



中村大輝さん(工学研究科 修士課程)

「毎日・DAS学生デザイン賞大学生の部」で入選しました!



▲中村さんの作品「音楽する建築」

毎日新聞社と一般社団法人 総合デザイナー協会が共催する「毎日・DAS学生デザイン賞 大学生の部」にて、大学院 工学研究科 修士課程 宇野研究室1年生の中村大輝さんが入選を果たしました!

「毎日・DAS学生デザイン賞 大学生の部 “金の卵賞”」は若い才能を発掘すべく、全国の大学生を対象に毎年6部門でデザインを募集し、審査が行われます。記念すべき50回目となった今回からは、審査がネット審査へと変わりました。

中村さんは「建築部門」にて応募をし、「音楽する建築」という作品で入選を果たしました。

第50回 毎日・DAS学生デザイン賞 大学生の部「金の卵賞」入賞者発表

<https://das.or.jp/?p=8392>



後岡一騎さん(工学研究科 修士課程)

軽金属学会東海支部ポスター講演会にて、奨励賞を受賞しました!

10月7日(月)に、名古屋大学にて軽金属学会東海支部主催の「軽金属学会東海支部 特別講演会およびポスター講演会」が開催され、大学院 工学研究科 機械工学専攻 修士課程1年 西脇武志研究室所属の後岡一騎さんがポスター講演会にて発表を行い、奨励賞を受賞しました。

後岡さんは「角筒成形における部分軟化領域の最適化」というタイトルで発表しました。これはアルミニウム合金板の成形性を向上させるための研究になります。

アルミニウム合金板は鋼板に比べて成形性が劣っており、成形性を向上させる研究が行われています。そのため、アルミニウム合金板を部分的に軟化させ強度分布を付与させる部分軟化成形法の研究が行われてきましたが、どのような軟化領域が最も成形性が良くなるかは明らかになっておりませんでした。

それに対し、後岡さんは、箱型の容器形状を作成するための角筒プレス成形において、最も成形性が向上する部分軟化領域の導出を最適化手法を用いて自動で決定するシステムを開発するという研究を行いました。

この研究の成果によりアルミニウム合金板の更なる成形性の向上が期待できます。



▲今回受賞をした後岡さん(右)

軽金属学会東海支部 特別講演会およびポスター講演会

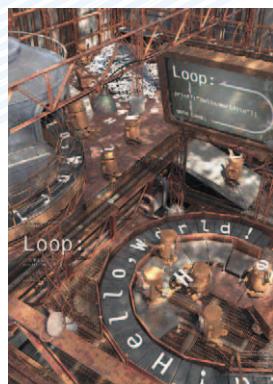
https://www.jilm.or.jp/uploads_content/2019/08/tokai20191007.pdf



河邑侑徒さん、木村翔太さん、木村真也さん、高杉昇吾さん、水谷祐介さん(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 「第10回ポスターグランプリ」で5名が入選しました!

中部地区印刷協議会を構成する愛知・岐阜・三重・石川・富山の5県印刷工業組合と愛知県印刷工業組合が主催する「第10回ポスターグランプリ」で情報デザイン学科 メディアデザイン専攻4年の5名が入選しました。今回、入選を果たしたのは、河邑侑徒さん、木村翔太さん、木村真也さん、高杉昇吾さん、水谷祐介さんです。

今回の課題は「輪」。応募規定であるB1サイズ(728×1030mm)のポスター制作に夏休み期間を使って取り組み、それぞれの自由な発想から「輪」を表現しました。一般デザイナーの応募者を含むコンテストでの健闘でした。おめでとうございます!



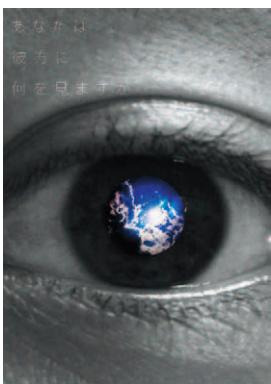
▲河邑侑徒さんの作品



▲木村翔太さんの作品



▲木村真也さんの作品



▲高杉昇吾さんの作品



▲水谷祐介さんの作品

小池まいさん(建築学科 土木・環境専攻) 「命をつなぐPROJECT」の事例報告を行いました!



▲今回事例報告を行った小池さん

6月28日(金)に、「ビオトープフォーラム in 愛知 2019－COP10からポスト愛知へー」がミッドランドスクエア5階のミッドランドホールにて開催されました。

このフォーラムは、特定非営利活動法人 日本ビオトープ協会の主催で開催されており、愛知県知事の大村秀章氏が基調講演を、トヨタ自動車株式会社環境企画室長の石田英治氏が事例報告を行いました。

それに引き続き、「命をつなぐPROJECT」の事例報告を、NPO法人日本エコロジスト支援協会の村田まりな氏および北村秀行氏と一緒に、本学建築学科 土木・環境専攻4年の小池まいさんが行いました。

「命をつなぐPROJECT」は、愛知目標の継承事業であり、知多半島臨海部に連なる企業緑地を舞台に、企業や学生・行政・有識者・NPOが、緑地の質的価値を高めることを目標に立場を超えて協働しています。今回の事例報告では、地域参加型のイベント開催や、フリーペーパーやウェブでの情報発信等、様々な活動に取り組んでいることを紹介しました。フォーラム終了後には、参加されていた企業や行政の多くの方々から、小池さんの発表に対して賞賛のお言葉をいただきました。

2019年度シアトル短期留学がスタートしました!

9月1日(日)に成田国際空港より、シアトル短期留学の参加者15名がアメリカへ向けて出発しました。

本プログラムでは9月1日(日)から15日(日)の期間で、ELSシアトル校(ワシントン州)にて実践的な会話等を用いた英語学習やマイクロソフト社、ボーイング社工場などの見学プログラムを受けています。

7月23日(火)には本学にて出発前オリエンテーションをおこないました。

主催の株式会社アドの担当者様より「現地のクラスでは、板書を頑張るだけでは良い評価はもらえません。積極的に発言をしたり、先生やクラスメイトの話を真剣に聞く姿勢が大事です」と教えていただきました。

参加者全員が積極的に国際交流に取り組めることに期待しています!



▲参加者の15名

杉本研究室、 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 レゴランド®・ジャパンの WEBムービーを 制作しました！

本学情報デザイン学科 杉本研究室の学生と情報デザイン学科メディアデザイン専攻の「セミナ1」を受講している3年生の混成チームで、2019年5月から制作しているレゴランド・ジャパンのWEBムービーが完成しました。

音楽は小高研究室の学生がオリジナルで作曲、CG制作は原田研究室の学生が担当するなど、研究室の垣根を越えて協力しながら制作を進めてきました。

動画はこちらからご覧になれます

[3年生制作]LEGOLAND® Japan Resort

× 大同大学「レゴランド・ラブ」篇

<https://youtu.be/22o0ModBD24>



[4年生制作]LEGOLAND® Japan Resort

× 大同大学「レゴニンジャゴー・ダンス」篇

<https://youtu.be/FQUIHLX8wi8>



上岡ゼミ(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) ブランドムービーを作りました！



情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 上岡ゼミに所属する学生たちが、名古屋市社会福祉協議会から依頼を受けてブランドムービーを制作しました。

このムービーは、当時の上岡ゼミに所属する3年生全員が、上岡教授とプロのカメラマンの指導のもと、「それが、名古屋市社会福祉協議会」をコンセプトに企画・演出、撮影を行ったもので、様々な悩みを持つ人達とつながりながら歩み続ける様を、階段を登り続けるシーンを基に作りました。

シナリオにふわさしい階段を探すのに苦労したり、コンセプトに沿った撮影方法や、出演者の選定や動き、セリフなどの演出、背景の合成など多くの難問にぶつかりましたが、名古屋市社会福祉協議会の皆さんからは、「私達自身のことが大変良く表現できた」とのお褒めの評価をいただきました。

ブランドムービーはこちらからご覧いただけます

<https://www.nagoya-shakyo.jp/>



総合情報学科 経営情報専攻

学内の教職員を対象に「Let's DU sports」を開催しました！

7月5日(金)、19日(金)に本学石井記念体育館にて、経営情報専攻が「Let's DU sports」を開催しました。

「Let's DU sports」は、日頃お世話になっている教職員にスポーツを通して健康維持、増進をしてもらうことを目的とし、経営情報専攻の学生が学びの一環として、自分たちで企画したものです。

スケジュールから運動メニューまで自分たちで考え、学内では自作のチラシを配布し参加者を募りました。

当日は、多くの教職員が参加をし、充実した運動メニューの中、たくさんの笑顔であふれる企画となりました。



▲教職員に説明をする様子。すべて自分たちで行いました。

小島研究室(情報デザイン学科)

「映画監督に迫るインタビュー取材」を行いました!

9月5日(木)、アニメーション制作会社の株式会社プロダクション・アイジー(東京都武蔵野市)にて、情報デザイン学科の小島一宏准教授とゼミ生たちが「映画監督に迫るインタビュー取材」を行いました。

小島准教授は2015年度から、現在の日本映画界を支えている映画監督の思想や信条、ルーツなどに迫るインタビュー取材を、ゼミ生たちとともに研究の一環として毎年続けています。

これまで歴代のゼミ生たちと、山崎貴監督、田中光敏監督、堤幸彦監督、熊澤尚人監督にマイクを向けてきました。

5回目となる今年度は、小島准教授が東海ラジオの番組などを通じて20年来の親交がある、本広克行監督に取材をお願いしました。本広監督は『踊る大捜査線』シリーズや『幕が上がる』『亜人』などを手掛け、近年では実写映画だけでなくアニメーション作品(劇場版『PSYCHO-PASS サイコパス』など)の総監督も務めいらっしゃるヒットメーカーです。

インタビューではまず、小島准教授がすべての監督にお聞きしている「人生で夢中になった3つのこと」について質問し、続けてゼミ生全員から、ゼミで事前に検討した「監督の代表作品に関する質問」や「監督ご自身に関する質問」などをさせていただきました。本広監督は、ユーモアも交えてとても気さくに質問にお答えください、ゼミ生たちは第一線で活躍されている著名な監督と直接言葉を交わすことで、多大な刺激を受けたようです。

インタビューの模様は、動画カメラと録音機材で収録しました。今後、インタビュー内容の文字起こしや映像編集などを行い、研究成果としてまとめていく予定です。



▲本広克行監督にインタビューする、小島ゼミ生たち

建築学科 かおりデザイン専攻

愛知県主催「女子中高生のための理系女子&リアルなオシゴト潜入取材バスツアー」受け入れを実施しました

8月5日(月)に愛知県が推進する「あいち女性の活躍促進プロジェクト」の一環として、女子中高生18名が本学に取材ツアーに訪れ、かおりデザイン専攻で受け入れを実施しました。この事業は女子中高生に理系分野への進学・就職に関心を持ってもらう目的で行われており、女子中高生による県内大学・企業への取材ツアー全5コースが設定され、開催されました。

大同大学を訪れるコースでは「身近なニオイとクリーンな関係(香り×女子)」と題し、かおりデザイン専攻の光田恵教授による授業・実験、かおりデザイン専攻に在籍する学生への取材が行われました。

参加者は普段身近に接しながらも強く意識することの少ない「におい・かおり」について、住環境や食品など世の中の様々な場面に影響を及ぼしていることを学んだ他、嗅覚検査や調香を実習し、楽しんでいました。また、大同大学の学生がどういう理由で大学進学を決定したか、どのような就職先でどのような仕事をするのかなどについて、興味津々に学生にインタビューしていました。



▲講義の様子

大同大学を訪れた後は株LIXIL知多工場を訪問し、住まいの内装開発や、脱臭についての研究開発をニオイの視点から見学しに行きました。

建築学科 かおりデザイン専攻

はつらつ長寿推進事業にて学生が講師を務めました



▲講義の様子

7月10日(水)に名古屋市南区の伝馬コミュニティーセンターで開催された、はつらつ長寿推進事業にかおりデザイン専攻の学生12人が講師として参加しました。

かおりに関する講話、嗅覚検査、フレグランスソルトづくり体験を実施し、参加者から大変好評を得ました。

この取り組みは、介護予防を推進すること目的に名古屋市南区社会福祉協議会が継続して行っている「高齢者はつらつ推進事業」の一環であり、毎年かおりデザイン専攻の学生が講師を務めています。今回リーダーを務めた4年 尾崎賢人さんは「参加者の皆さんとはとても熱心に話を聴いてくださるだけでなく、質問も多く向上心が強いと感じました。若い僕たちこそ、もっと元気に頑張らなくてはいけないと身が引き締まる思いでした」とコメントしました。

建築学科 建築専攻

D-Learningの最終発表会が開催されました

建築学科 建築専攻 2年生前期に開講される「建築設計1」(通称:D-Learning)は、実社会の課題を取りあげることで、現実の制約や課題の厳しさに触れながら建築設計を学ぶ特色ある授業です。2019年度のテーマは「岩倉の家」。岩倉市に住宅を建設予定である依頼主の要望に基づいて、戸建住宅の設計を行う課題でした。間口約8m、奥行き約60mと細長く



▲金賞を受賞した今井さんのプレゼンの様子

特徴的な敷地に、木造平屋建ての住宅を提案して欲しいとの要望に応え、学生達は約2ヶ月の間、本課題に取組んできました。

その総仕上げとして9月10日(火)、施主様を本学にお招きして公開講評会を開催し、学生達は自身の計画案のコンセプトや拘りのポイントについてプレゼンテーションを行いました。

この公開講評会では、施主様から優秀者に金賞・銀賞・銅賞の各賞が送られたほか、実際に本物件の設計・施工を担当される工務店様からも賞が送られました。

なお、金賞に選ばれた作品は、実際の設計案のベースとして採用されることとなります。各賞の受賞者は以下の通りです。

金賞:A18012 今井香樹「自然が造り出す家」

銀賞:A18072 古木美有「2人という暮らし方」

銅賞:A18010 猪上人海「中庭がつなぐもの」

銅賞:A18053 田中瑞季「Cut Circles HOUSE」

株式会社丸協賞:

A18051 田口裕人「写り/映り/移り 変わる」

株式会社丸協会長賞:

A18063 羽根凜花「光降り注ぐ、やわらかな家」

川福基裕研究室(電気電子工学科)

無線駆動車両走行会を実施しました

9月20日(金)に電気電子工学科 川福研究室の4年生が、研究の基礎学習最終課題として無線駆動車両(RCカー)の走行会を実施しました。

この走行会は川福研究室で毎年実施している研究発表会で、複数のチームに分かれて課題(カメラを搭載したRCカーを別部屋から操作し、走行させるプログラムを作成)に取り組んだ成果を披露します。ドライバーはRCカーに搭載されたカメラの画像をPCの画面で見ながら操作します。走行には条件が課せられており、各チームギミックが搭載されていました。

参加者は機敏に動くRCカーをコントロールするのに苦労しながらもすぐに慣れて、ギミックを用いて走行することを楽しんでいました。

なお、この走行会で指摘された事項や学生自らが気づいた改良点を基に、本格的な卒業研究に取り組んでいきます。

各チームに課せられた課題(条件)は以下のとおりです。

課題(条件)

- チームに分かれて設計する ● 貸与のRCカー・基板・カメラを用いる。
- RCカー本体の改造はない。
- 参加者の質問には全員が答えられるようにすること。
=全員がちゃんと参加している事の証。
- ベースとなるプログラム群を改造し、走行プログラムを作成する。
- PCにUSB接続したハンドルとステアリングに連動してRCカーが駆動するプログラムとする。
- RCカーに搭載したカメラ画像をPC上で確認できること。
- 走行速度は安全と思われる範囲で各チームで設定する。
- なにかギミックを追加する。=単に走行できるだけにしない。



▲無線駆動車両走行会の様子

徳納一成教授(機械工学科)

金属系材料研究開発センターの 10月号巻頭言を依頼執筆しました

一般財団法人 金属系材料研究開発センターが毎月刊行している「JRCM NEWS 10月号」の巻頭に、機械工学科の徳納一成教授のコメントが掲載されました。

2年ぶりの執筆となった今回は、「『実学主義』のもとで進める研究活動」というテーマのもと、本学と各種企業が共同で行っている研究について紹介されています。

JRCM NEWSはこちらからご覧になれます。

http://www.jrcm.or.jp/jrcmnews/b_jrcmnews.htm



宮本潤示講師(機械工学科)

Best Poster Awardを受賞しました

6月11日(火)から14日(金)にかけて、金沢工業大学にて開かれた国際会議「The 15th International Symposium on Sputtering & Plasma Processes～ISSP2019～」において、工学部 機械工学科の宮本潤示講師が発表した研究がBest Poster Awardを受賞しました。

本会議はプラズマ処理に関する国際会議であり、約15ヶ国88件の発表がありました。このうちBest Poster Awardは2件にのみ与えられる賞です。宮本講師には証書と副賞が贈られました。

発表タイトルと著者は下記の通りです。



▲証書を持ち、微笑む宮本潤示講師

■発表タイトル

Treatment of Deteriorated Cutting Fluid by Atmospheric-Pressure Plasma and in-Liquid Plasma

■著者

J. Miyamoto*, R. Tsuboi, S. Kawada and M. Yoshida (*発表者)

船橋仁奈准教授(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

DSA/JCD共催「日本空間デザイン賞」にて銀賞を受賞しました

建築専攻/インテリアデザイン専攻の船橋仁奈准教授が設計・監理を行った『パサージュのある事務所の改修』が、「日本空間デザイン賞」オフィス部門にて銀賞を受賞しました。

審査員からは「オフィス空間は新たな改革が求められている分野である。企業イメージではなく、一人一人が働く環境を小さな単位で丁寧に上げている点を評価する。働く人の意識が変わるような、小さなスケールから生まれる価値軸もあるのではないか。(一部抜粋)」との評価を受けました。

日本空間デザイン賞とは、日本空間デザイン協会(DSA)と日本商環境デザイン協会(JCD)が共催する、日本で唯一かつ最大の空間アワードです。一次審査にて1000作品を超える作品の中から入選作品(LongList)が選出され、二次審査によりBEST100作品(Short List)が選出されました。そして8月初旬に行われた最終審査(公開審査)では、各ジャンルからそれぞれ金賞・銀賞・銅賞が選出され、船橋仁奈准教授の『パサージュのある事務所の改修』は、見事オフィス部門で銀賞を受賞しました。

なお、受賞作品は2020年2月4日(火)から16日(日)までの間、GOODDESIGN MARUNOUCHIにて展示されます。また2019年12月に発行予定の「年鑑日本の空間デザイン2020(六曜社)」に掲載される予定です。

小島一宏准教授(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

鈴木敏夫さんのトークショーで 聞き役を務めました

9月28日(土)に、金城学院大学のアニー・ランドルフ記念講堂にて学院創立130周年を記念したチャリティイベントが開催され、本学 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻の小島一宏准教授がトークショーの聞き手を務めました。

イベントの第1部で、スタジオジブリの名プロデューサー・鈴木敏夫さんがご登壇。地元・名古屋のご出身である鈴木さんに、小島准教授が対談形式で1時間ほどインタビューしました。小島准教授は、ジブリ美術館が企画・運営する『三鷹の森アニメフェスタ』の司会を10年以上にわたって担当しています。そのご縁で、今回のトークショーにも出演依頼を受けました。

『スタジオジブリの作品が伝える女性へのメッセージ』と題されたトークショーでは、これまでの変わりゆく時代や環境の中で、スタジオジブリが"女性"をどのように捉え、作品で描いてきたか。そして、これから時代を生きる"女性"たちに、どんなメッセージを送り出すかなど、高畠勲監督や宮崎駿監督ら名匠の作品を支えてきた鈴木プロデューサーから、貴重なお話の数々が飛び出しました。

特に、高畠監督と宮崎監督の描ぐ"女性像"の違いなどのお話はとても興味深く、1000人を超える聴衆も鈴木さんのお話に聞き入っていました。

トークショーの模様は、鈴木さんがパーソナリティを務めるTOKYO FMの『ジブリ汗まみれ』(日曜夜に全国ネット)で年内に放送される予定です。お時間がある方は、ぜひお聴きください。



▲トークショーを行った鈴木敏夫さん(右)と小島准教授



▲受賞作品「パサージュのある事務所の改修」のプレゼンシート

日本空間デザイン賞

<https://compe.japandesign.ne.jp/kda/result.html>



武藤隆教授(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

9/20(金)、9/27(金)中日新聞の「中部美術縁起」に執筆記事が掲載されました

9月20日(金)、27日(金)の中日新聞に建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻の武藤隆教授が執筆した記事が掲載されました。

今回、武藤教授は夕刊7面文化欄に掲載されている「中部美術縁起」のコーナーで、「木を見て森を観ず(上)(下)」と題して、寄稿をしました。

(上)ではあいちトリエンナーレ2019において、「表現の不自由展・その後」だけが、突出して話題になっていますが、あくまで66組の作家による国際現代美術展のうちの1組であり、企画は5ジャンルで合計106もあること、そのことを「木を見て森を観ず…」と例えつつ、まちなかを中心としたあいちトリエンナーレの特徴を紹介し、いかに作品や芸術祭そのものに向き合うべきかを記しています。

(下)では上編に引き続き、まちなかを中心としたあいちの特徴を紹介しつつ、市長の発言に対する意見も付して、今回の事件はもちろんのことあいち名古屋の今後の文化芸術そのものを「木を見て森を観ず…」と例えて記しています。



▲9月20日(金)付 中日新聞



▲9月27日(金)付 中日新聞

樋口恵一講師(建築学科 土木・環境専攻)

実証実験の内容が新聞に取り上げられました

7月23日(火)付中日新聞夕刊一面と、24日(水)付中日新聞朝刊市民欄にて、建築学科 土木・環境専攻の樋口恵一講師が行っている実証実験が取り上げられました。

この実証実験は「南医療生活協同組合・玉野総合コンサルタント」と共同で行われており、高齢者の外出を支援し、認知症予防や孤立防止を目的とされています。

今回は、2019年8月から10月までの間、名古屋市緑区のサービス付き高齢者住宅「おたがいさまの家」と名古屋市南区の「おたがいさまの家みなん」に折畳みができる電動車(SCOO)が配置され、利用者の外出範囲や回数の変化等を把握するとともに、道路環境の改善点や共同利用の仕組みづくりに必要なデータを収集します。



▲7月23日(火)付 中日新聞

樋口恵一講師(建築学科 土木・環境専攻)

東海テレビ「ニュースOne」に出演しました

8月21日(水)、東海テレビ「ニュースOne」(毎週月~金 16:49~放送)に、建築学科 土木・環境専攻の樋口恵一講師が出演しました。



番組内では、運転免許を返納した後の高齢者の外出を支える「オシャレ電動カート」として「SCOO」が紹介され、樋口講師と「南医療生活協同組合・玉野総合コンサルタント」の共同で行われている実証実験の様子が取り上げられました。

樋口講師は、この実験を通して「自分の脚で自立して移動できるような社会を目指してやりたい」とコメントをしました。

番組内容はこちらから

<http://www.tokai-tv.com/newsone/>



光田恵教授(建築学科 かおりデザイン専攻)

東海テレビ「ニュースOne」に出演しました

7月3日(水)、東海テレビ「ニュースOne」(毎週月~金 16:49~放送)に、建築学科 かおりデザイン専攻の光田恵教授が出演しました。



光田教授は番組内のコーナー「くらしOne」で、「梅雨や夏の時期に気になる生ごみのニオイ。簡単で身近な物を使ってできるニオイ対策を調査!」という特集に出演しました。この特集では、この時期に気になる「生ごみ臭」の原因や対策を実験を交えながら紹介をしました。

さまざまな対策の中でも特に「お菓子の袋」を利用した方法がにおいを防げるとされました。

番組内容はこちらから

<http://www.tokai-tv.com/newsone/>



岡田心准教授(情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

中部デザイン団体協議会創立30周年イベントで成果事例を紹介しました

7月12日(金)に、名古屋市青少年文化センターアートピアホールにて開催された「中部デザイン団体協議会(CCDO)創立30周年記念イベント」に、プロダクトデザイン専攻の岡田心准教授が参加をし、成果事例を紹介しました。



▲講演の様子

このイベントは、中部デザイン団体協議会(CCDO)創立30周年事業推進委員会主催で「社会とつながるデザイン」というテーマのもと開催され、岡田准教授は「産学官協同フォーラム」の中で、教育機関はどう社会とつながろうとしているのか産学官協同の成果事例を紹介しました。

中部デザイン団体協議会(CCDO)

<http://ccdo.info/>



澤岡昭名誉学長

8/2(金)読売新聞で これからの宇宙開発についての インタビュー記事が掲載されました



8月2日(金)付の読売新聞朝刊に、澤岡名誉学長のインタビュー記事『アポロ計画月着陸50年』の教訓が掲載されました。

澤岡名誉学長は記事の中で、「アメリカ航空宇宙局(NASA)による人類初の月面着陸から50年になるが、NASAはこの先の目標を政治に翻弄され、定められていない。かつてのようにNASAが世界の宇宙開発を主導する力を持たない中、月や火星へ人を送る巨大計画は国際協力で時間をかけて実現するしかない。国際的な新しい合意と枠組み作りが必要で、日本も計画段階から関わり発言していくべきだ」とコメントしています。

▲8月2日(金)付 読売新聞

澤岡昭名誉学長

9/12(木)日本経済新聞で 三菱重工、H2B打ち上げ中止に 関するコメントが掲載されました

9月12日(木)付の日本経済新聞に、澤岡名誉学長のH2Bロケット打ち上げ中止に関する記事の中で、コメントが掲載されました。

澤岡名誉学長は、今回の中止の原因に関して「エンジンの噴射前に発火しているので、火元は電気系のスパークくらいしか考えられない。燃料に引火すれば爆発的に燃えるので、燃料が漏れたとは考えにくい」と分析し、「あってはならない基本的なトラブルで、場合によっては技術の根幹を疑われかねない」と指摘しています。



▲9月12日(木)付 日本経済新聞

澤岡昭名誉学長

地域と連携した公開講座が開催されました

7月31日(水)、名古屋市教育委員会生涯学習課主催のもと、イーブル名古屋ホールにて開催された公開講座にて、澤岡昭名誉学長が特別講演を行いました。

当日は250名の参加者が集まり、「国際宇宙ステーションと宇宙船～人はどこまで耐えられるか～」というテーマのもと、国際宇宙ステーションや日本人宇宙飛行士の紹介、月や火星に人類が行けるのはいつなのかなどをアドバイスながらの講演となりました。

10月からは南生涯学習センターにて全6回に渡り、さらに詳しい内容について講演を行います。



▲多くの参加者が講演にうなづきながら聞き入っていました。

2019年度地域連携講座

開催予定一覧は[こちらから随時更新](https://www.daido-it.ac.jp/ippan/renkei/)

<https://www.daido-it.ac.jp/ippan/renkei/>



新刊紹介

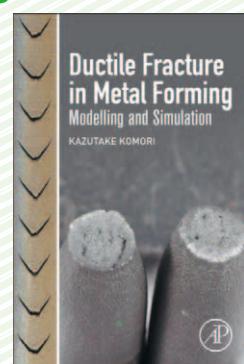
専門図書「Ductile Fracture in Metal Forming - Modeling and Simulation」を執筆しました

小森和武教授(機械システム工学科)

工学部 機械システム工学科の小森和武教授が専門図書「Ductile Fracture in Metal Forming - Modeling and Simulation」(「金属加工における延性破壊－模型化と模擬実験」)を執筆しました。

この本は、材料が大きな塑性変形を受けた後に破壊する現象である、延性破壊の分野では

約30年ぶりの専門図書です。この本の第1章及び第2章では巨視的な視点からの延性破壊が、第3章及び第4章では微視的な視点からの延性破壊が、多数の文献を用いて紹介されています。そして、第5章及び第6章では小森教授が提案している「楕円空孔モデル」を用いた微視的な模型化と解析結果が紹介されています。



出版社のサイトは[こちらからご覧になれます](https://www.elsevier.com/books/ductile-fracture-in-metal-forming/komori/978-0-12-814772-6)

<https://www.elsevier.com/books/ductile-fracture-in-metal-forming/komori/978-0-12-814772-6>

著者:Kazutake Komori 発行日:2019年10月15日
発行所:Academic Press (Elsevier) 頁数:294頁
ペーパーバック ISBN: 9780128147726
電子書籍 ISBN: 9780128147733

キャリアセンター充実の講座開催!

キャリアセンター

(株)資生堂ジャパンとコラボをした 男子学生のための「身だしなみ講座」を開催しました!

10月8日(火)、本学にて、男子学生に向けた就職ガイダンス「身だしなみ講座」を開講しました。

株式会社資生堂ジャパンとコラボしての開催となったこの講座では、就職活動を控える学生が多く参加をし、就職活動で役立つヘアスタイルや服装だけではなく、日ごろから活用できるスキンケア術をビューティーアドバイザーのサポートのもと、実践で学びました。

スキンケアを初めて行うという学生が多い中、化粧水や乳液の付け方、その重要さなどを実習し、特に紫外線対策については、楽しそうにパックマスクを付けながら学ぶ学生が多くいました。

今回の充実した講座でインターンシップや就活本番に向けて、準備を整えました。



▲「身だしなみ講座」の様子。パックマスクで肌にうるおいを与えます。

キャリアセンター

(株)資生堂ジャパンとコラボをした 女子学生のための「就活メイクアップ講座」を開催しました!

7月17日(水)に本学にて、女子学生を対象とした就職ガイダンス「メイクアップ講座」を開講しました。

昨年度に引き続き、株式会社資生堂ジャパンとコラボしての開催となったこの講座では、就職活動で役立つ情報だけではなく、社会人になっても使えるメイクアップをビューティーアドバイザーのサポートのもと、実践で学びました。

今回は就職活動を控える学生が多く参加をし、ひとりひとり学生のスキルに合わせてビューティーアドバイザーが個別にサポートしながら、スキンケアからベースメイク、ポイントメイク、さらにはヘアスタイルを実習しました。

普段は「すっぴん」で過ごすという学生から、カラーメイクといった「メイクの応用」を楽しむ学生など、幅広い学生たちが普段しているオシャレのメイクとは異なる「身だしなみ」としてのメイクスキルを身につけ、インターンシップや就活本番に向けて、準備を整えました。



▲「メイクアップ講座」の様子。初めて見るメイク用品もたくさんありました。

キャリアセンター

就職力アップセミナを開催しました!

10月8日(火)から9日(水)の2日間で、本学にて2年生を対象とした「就職力アップセミナ」が開かれました。

この就職力アップセミナは、自己理解を深めながら進路決定までの4年間の流れを知るために1年次前期から開講されており、今回は「インターンシップに向けた業界研究」として企業研究のポイントや、企業紹介がされました。

各日150名以上の2年生が参加をし、パネルディスカッションに真剣に聞き入るようすが印象的でした。



伊勢湾台風60年 市民防災の集いが開催されました

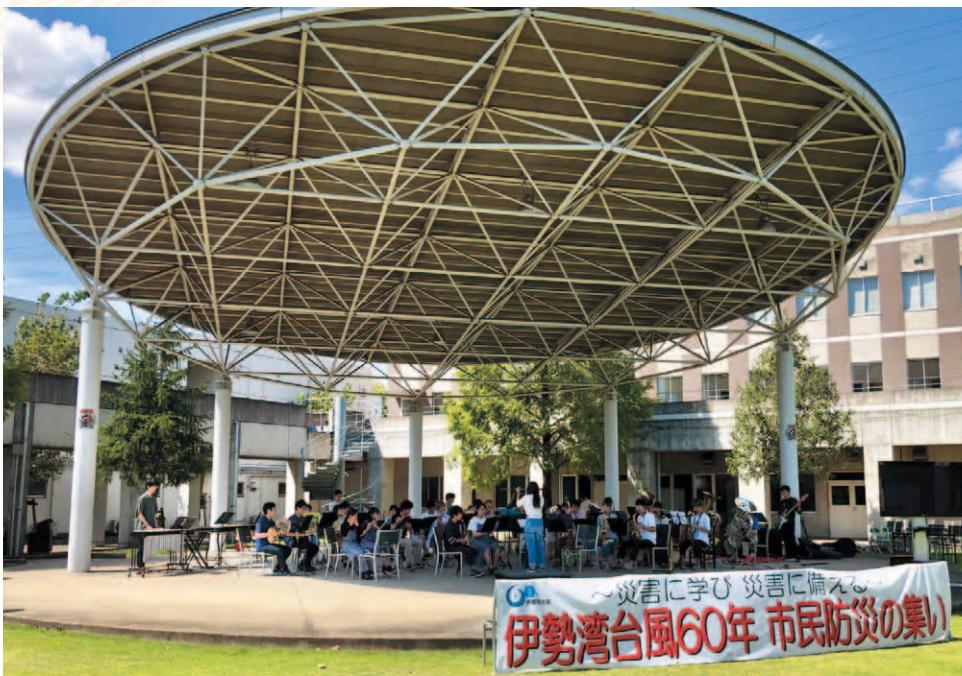
9月7日(土)に本学を会場にして、「伊勢湾台風60年 市民防災の集い」が開催されました。

防災に関するシンポジウムや映画上映、写真展示や資料紹介、防災に関わる各種体験コーナーやスポーツ教室、消防車や自衛隊車両等の展示、屋外ステージでは防災クイズの他、バンド演奏やダンス等も披露されました。

ステージの総合司会は本学の小島一宏准教授で、シンポジウムや各コーナーでも本学の教職員と学生ボランティアが地域の皆さんと一緒にイベントを盛り上げていました。

当日の観客動員は2,800名で、多数のマスコミから取材を受けています。

またこのイベントは、名古屋市防災表彰式の市長賞に選定されました。



▲ステージでのバンド演奏風景

リーダースキャンプを開催しました

8月22日(木)と23日(金)の2日間にわたって、クラブ委員会主催のリーダースキャンプが開催されました。

リーダースキャンプでは、団体において自分なりのリーダーシップを今以上に発揮することが目的とされており、今回も各クラブのリーダーが参加しました。

講師には、株式会社ラーニングバリューの藤田晋先生と矢野晶子先生をお招きし、参加者が各クラブでリーダーシップを発揮するため“自分らしい”リーダーシップとはなにかを学びました。

先生の経験談を交えた講義に真剣に聞き入る参加者や、メモを取っている参加者が多くおり、今回のリーダースキャンプの満足度は95%を超みました。

各クラブのリーダーの方は、今回のリーダースキャンプでの経験を、ぜひ今後のクラブ活動に活かしていってください!



▲リーダースキャンプの様子。対話は「心」で行うのが重要だと説明されました。

林昇さん

優良賞を受賞しました!

情報室の林昇さんが「わたしの提案」において、優良賞を受賞しました。

林さんは、「長期的視座に立ったプリンタ消耗品費低減」として、これまでメーカー純正品をメーカー直販で購入していた情報演習室におけるプリンタ消耗品(トナー、ドラム等)にかかる費用を、他販社からの購入により単価を下げた実績を以て、メーカーと粘り強く交渉し、メーカー直販価格を10%低減させました。

日頃からコスト意識を高く持って業務に取り組み、コスト削減に繋げた姿勢が評価されての受賞です。

林さんは「今後も変わらぬ姿勢で業務に取り組みます」と話されました。おめでとうございます。



▲(左から)林さんと高村常務

新校舎特設サイトが オープンしました

2020年秋の完成をめざして建設が始まっている新校舎の特設サイトが大学ホームページ内にオープンしました。

日々、変化し校舎が出来上がっていく様子をお伝えしていきます。

ぜひご覧ください。

新校舎特設サイト

[https://www.daido-it.ac.jp/
new-campus/index.html](https://www.daido-it.ac.jp/new-campus/index.html)



日本福祉大学と 合同研修を行いました

9月10日(火)に本学において、日本福祉大学と大同学園の事務職員計49名による事務研修を行いました。

「改善・合理化を促す業務マニュアル作成」をテーマに講師をお招きし、個人やグループによるワークなどを交え、業務改善の視点に立ったマニュアル作りの知識を深めることができました。

本研修により、事務業務はもちろんのこと学生サービスの向上にもつなげていくよう進めています。

高村誠一常務理事

五輪ブレザーを母校に寄贈しました

9月21日(土)付岐阜新聞にて、本学の高村誠一常務理事が五輪代表ブレザーを母校に寄贈したことが掲載されました。

▲9月21日(土)付 岐阜新聞

学校法人 大同学園 新理事長が就任しました

この度、学校法人大同学園においては、理事長の任期満了に伴い、現理事長 奥村博司は2019年8月29日付で退任、新理事長に武藤大が8月30日付で就任いたしました。

新理事長就任日は2019年8月30日(金)、任期は2年間です。
なお、新理事長 武藤大の経歴等は、以下のとおりです。



▲新理事長 武藤 大

- ▲新理事長 武藤 大
- 氏名 武藤 大(むとう たけし)
 - 満年齢 60才
 - 最終学歴
- 1982年 3月 九州大学 経済学部経済工学科 卒業
- ### ●職歴
- 1982年 4月 大同特殊鋼株式会社 入社
- 2003年 11月 同社 鋼製品事業部 鋼製品販売部長
- 2007年 6月 同社 鋼製品事業部長
- 2008年 6月 同社 経理部長
- 2012年 4月 同社 特殊鋼製品本部 事業総括部長
- 2012年 6月 同社 取締役 特殊鋼製品本部 事業総括部長
- 2014年 6月 同社 取締役
- 2015年 6月 同社 執行役員
- 2016年 6月 同社 常務執行役員
- 2017年 6月 同社 取締役 常務執行役員
- 2019年 6月 同社 顧問(現在に至る)
- 2019年 8月 学校法人大同学園 理事長(8月30日就任)